

僕のいとこが通っていた高校は校則が厳しく、持ち物はもちろん、髪の毛の長さや制服の丈も厳しく制限されていて、いとこはよく不満を漏らしていました。どんなに厳しい校則であつても、ルールである以上は守るべきだといふ人もいますが、本当にそうでしょうか。確かに、どんなに厳しい校則であれ、自分でその校則がある高校を選択して入学した以上は、そのルールに従うのは当然なのかもしれない。どんな社会にもルールは必ずあります。ルールがなければ人間は協力して生きていくことができないのですから、どんな校則でも守るべきだという考えは理屈としては正しいかもしれません。しかし、そのルールが憲法で認められた国民の人権として許されている範囲の自由を奪うものであるなら、生徒はそれに従う必要などないはずです。そもそもルールというのは、人間同士が幸せに共存していくためにあるもののはずです。だからこそ国の法律も、憲法で守られた基本

。

、

的人権を無視したものは、たとえそれが社会を合理的に発展させるようなものであっても認められていないのです。よって人権を無視し、人々の幸福を侵害するような誤ったルールであるなら、人はそれを破っても構わないはずです。校則も同じです。学校は勉強するだけのところではなく、生徒たちが充実した生活を送りながら自分の個性を磨いていくところですよ。それは生徒たちが持っている基本的な権利であって、その権利を侵害するようないでしうか。

以上の理由で僕は、それが明らかに個人の

人権を無視したルールであるなら、そんなルールは破ってもいいと思います。